

奨励賞

手話から広がる共生社会

県立平塚ろう学校中学部 1年 ^{やりみず} 鐘水 ^{ぼんた} 絆太

ぼくの通う平塚ろう学校では、地震や火事に備えての避難訓練が年に数回あります。まず放送がかかります。この時、ぼく達生徒は、耳が聞こえないので内容がわかりません。そのため、聞こえる先生が放送の内容を手話で通訳してくれます。しかし、先生も耳が聞こえなかったり、手話力が足りなかったりする時は、となりの教室にいる先生が来てくれたり黒板に書いてくれたりします。しかし、本当に大変な災害があった時はどうするのでしょうか。

ぼく達ろう者は、主に目で見て情報を得ます。ですから、教室に、放送の内容が同時に字幕で表示される電車のホームや車内にある電光掲示板のようなシステムがあったらスムーズに避難が出来ると思いました。

こんなことがありました。ぼく達ろう学校の生徒は、通学手段に電車を使う人が多くいます。ぼくもその一人です。

ある日、登校中に電車が止まるというトラブルに巻き込まれました。初めは、読書に夢中になっていて気付きませんでした。ふと「まだ出ないなあ。」と思い、電光掲示板を見てみると、「人身事故のため、運行を見合わせています。再開は〇時ごろを予定しています。」と表示されていました。

ぼくは、この字幕情報を見て、別のルートに登校方法を変え、無事に着くことが出来ました。この時、聞こえる人達は、車内放送を聞いて、すぐに理解したと思いますが、ぼくはみなさんと同じように、耳から情報を得ることが出来ません。「視覚情報が本当に大切だな。」と実感した出来事でした。

今、日本では少子高齢化が進んでいます。年をとると、聞く力が低下してくるため、聞こえにくい人も増々増加するのではないかと思います。

電車にある、字幕システムのような物が、もっと

身近にあると、高齢者やろう者も十分に情報を手に入れることができ、皆が暮らしやすい社会になるのではないのでしょうか。

また、スマートフォンが普及し、だいたいの人がスマホを持っている社会になりました。この、皆が持っているスマホに、色々な放送の内容などを字幕に変換して表示するシステムが入っていたら、とても便利だと思います。

ぼく達ろう者は、手話で会話をする人が多いです。しかし、聞こえる人で手話ができる人は、それほど多くありません。平塚ろう学校でも、着任したばかりで手話がほとんど分からない先生もいます。色々なコミュニケーション方法がありますが、先生が話した言葉が、文章として画面に表示されるようなくみも授業に役立つと思います。しかし、このシステムができてしまうと、先生が手話を覚えてくれなくなるかもしれない、と少し心配になりました。手話で話すことが、ぼくにとって一番楽しいのです。

ぼくは小5の時に、小6の人達と一緒に、手話を広める活動として、平成28年度に「楽しい手話」というポスターや冊子を作り、学校の地域や教育委員会、県庁に配りました。平成29年度には、「手話アイ・ラブ・ユー」という手話教室を、保護者や地域の人の人に向けて開催し、手話を教えました。また、慶応大学日吉キャンパス内で行なわれた「手話普及イベント」にも参加しました。手話が、少しずつでも、日本中に広まって、手話が通じる世の中になって欲しいです。

聞こえない人、見えない人、お年よりや赤ちゃん、たくさんの人々が、共に助け合える世の中になって行って欲しいです。ぼくも、何が出来るのか、考えていきたいと思っています。